

# COMEXI グリーンコンバーティングセミナー

COMEXIグループと日本エス・アンド・エイチが6月11日に、東京の大手町ファーストスクエアカンファレンスで開催した「COMEXIグリーンコンバーティングセミナー」。前号に引き続き、セミナー後半の概要を紹介する。

## ◆パートから一貫生産

いることから、高い機械精度を実現している。

セミナー後半では、COMEXIグループのアジア地区マネージャーであるYang Su氏が「水性フレキシ印刷、インキ」をテーマに講演し、浅野目社長が通訳にあたった。

同グループでは、大幅から狭幅まで広範囲のフレキシ印刷機をカバーしている。フレキシ印刷機について、他メーカーと異なり「鋳物から機械加工までの一貫生産」を基本とし自社工場で行っている。CIドラムなどのパーツを自社で生産して

水性タイプには6箇所に標準装備されており、乾燥効率の向上が図られている。メンテナンスのアクセスも、作業者がやり

## 水性フレキシで環境対応性向上

### 報告 ②



浅野目社長(右)とYang Su氏

「水性フレキシ」水性とEBのコンビネーション「UV」と捉えている。

drupa2012に出展・実演した水性フレキシ印刷システムは、BASFのインキを使用し500メートルの印刷を可能にしている。その理由としては「乾燥については3つの完全に分離されたドライヤーを使用」

また「水性インキを使用し、EBで乾燥させる新しいシステムが出てくる」として、システムのメリットを「水性ベースより印刷適性が高い、品質も高度なものとなる」と述べた。

システムは、BASFが開発しており2014年暮れに発表を予定している。新しいテクノロジを採用し市場に紹介する。完成度の高いものを開発するため、版材、インキなどのメーカーとコラボし進めている。

システムは、BASFが開発しており2014年暮れに発表を予定している。新しいテクノロジを採用し市場に紹介する。完成度の高いものを開発するため、版材、インキなどのメーカーとコラボし進めている。

今後、さまざまな分野のメーカーが協力し、水性の比率が上がっていくことが予想される。

講演の終盤ではYang Su氏が新技術として「無溶剤型のラミネーション」(ホログラフィ「レーザー」穴あけ機「レーザー」によるアニロックス洗浄)を紹介した。

水性インキは、長い開発の歴史を持つが、次の技術と目されるのがEB硬化水性インキテクノロジである。

## ◆溶剤フリーへの展開

次いでDIC分散技術第一本部分散技術IGの小林正典部長が「パッケージ印刷の将来・溶剤フリーフレキシ印刷」をテーマにサンケミカル戦略について話した。

また現在、いろいろなフィルムに使える裏塗り、表刷りが可能になってきたことから、サンケミカルはさまざまなラン

「ホログラフィ」は、アイキャッチ効果を高め、パッケージなど店頭での販促効果をもたらす。

「水性インキ」は、長い開発の歴史を持つが、次の技術と目されるのがEB硬化水性インキテクノロジである。

やすい構造だ。ドクターは、素材にマグネチックを使用したシステムで、刃の交換時に工具が必要なく、交換時間を短縮できるシステムである。

同グループでは無溶剤印刷として「オフセットCI」「オフセットEB」

また「水性インキ」は、長い開発の歴史を持つが、次の技術と目されるのがEB硬化水性インキテクノロジである。

「水性インキ」は、長い開発の歴史を持つが、次の技術と目されるのがEB硬化水性インキテクノロジである。